

発掘現場から②0最終回

とうとう終わつた

山陰道の発掘調査



門前上屋敷遺跡現地説明会の様子

掘った遺跡は18遺跡、面積はおよそ16万㎡にもなります。

これらの遺跡からは、県内では発見が珍しい旧石器時代の石器から江戸時代の島跡まで人々の悠久の営みの痕跡が発見されました。

旧石器時代のナイフ形石器（およそ2万5千〜1万3千年前のもの）が、名和小谷遺跡で見つかりました。

縄文時代の遺跡としては、門前第2遺跡（菖蒲田地区）で早期（およそ8千年前）の遺跡が見つかっています。また、名和飛田遺跡では前期（約6千年前）の土器が多量に出土したことから、名和川流域に縄文時代の集落の存在も考えられるようになりました。

弥生時代の集落遺跡としては茶畑第1遺跡、茶畑六反田遺跡、

古御堂笹尾山遺跡などを調査しました。茶畑第1遺跡ではたくさんのお墓が見つかると、昔の祭壇ではないかと考えられる珍しい掘立柱建物の跡も発見されました。また、押平弘法堂遺跡では当時のお墓が見つかっています。

古墳時代の遺跡は、富岡播磨洞遺跡で古墳が見つかりました。古御堂笹尾山遺跡、名和中畝遺跡では集落跡が見つかりました。

奈良・平安時代の遺跡としては、名和衣装谷遺跡、門前上屋敷遺跡、茶畑六反田遺跡などで集落跡や道の跡が発見されています。

鎌倉・室町・江戸時代などの遺跡は、門前上屋敷遺跡、茶畑六反田遺跡などで建物や島、田んぼの跡が確認されたほか、押平弘法堂遺跡ではお墓、門前鎮守山城跡では砦の跡が見つかっています。出土遺物には、中国から舶来した青磁や白磁なども見つかりました。

このように山陰道に伴う発掘調査では、地域の歴史を解き明かしていくうえで重要な意義を持つさまざまな時代の、いろいろ

なものが発見されました。今回開通する山陰道はこれから新しい時代の物流のルートとして地域と地域を繋ぐことになりませんが、それに先だつて行われた発掘調査は、はからずも旧石器時代から現在に至るこの地域の悠久の歴史も繋ぐことになりました。

さて、名和淀江道路に伴う調査が終了することにより、今号をもってこの「たより」はひとまず終わりとさせていただきます。長い間のご愛読、そして7年間にわたり発掘調査にご協力いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

鳥取県埋蔵文化財センター
調査第二係（名和調査事務所）
〒689-3205
西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5
電話 0859-54-2671

名和―淀江間の山陰道もいよいよ今秋に開通予定です。最終回となる今回は、その名和―淀江間の山陰道工事によって発見された遺跡について紹介します。

山陰道名和―淀江間の発掘調査（本調査）は、平成12年度から（財）鳥取県教育文化財団が、平成17年度からは鳥取県埋蔵文化財センターが主体となって発掘調査を行いました。7年間で